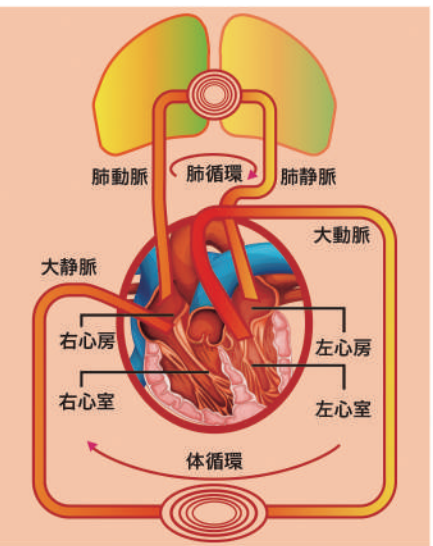


ルローが起こると病気になる

医師 鶴見隆史

赤血球の流れと健康

人間の体には体重の8%、(体重60kgの人で)約5ℓの血液が含まれている。この血液を全身に循環させて、我々ヒトの生命は保たれている。血液は、心臓から送り出されている。心臓の拍動数は1分間に70回ほど打つ。大動脈では、1秒間に50cmのスピードで流れ、1分間で全身を循環して、すっかり入れ替わる。(図1)



血液は生きていく限り常に凄いスピードで流れて、体中を循環しつづけているのだ。「血液が循環しななくてはならない理由はなんだろうか」

第一の意味は、生命活動に必要な物質を体中に速やかに配達することである。必要な物質は、酸素、タンパク質、脂質、炭水化物、ビタミン、ミネラル、酵素、ホルモンそして水である。第二の意味は、毒素の

排除である。第三の意味は、体温の保持である。第四の意味は、免疫の維持である。

赤血球は心臓から大動脈を出た後に物凄いスピードで流れ、全身の血管系を流れ循環し、どんな枝分かれした血管を走って行って最も狭い毛細血管にたどりつく。最も狭い毛細血管に入って、組織に到達する。

この真毛細血管に入る時のスピードは1秒間に1mm位で、大動脈と比べると大動脈は1秒間で50cm大変遅くなっている。そして組織にたどり着いたら、各組織にすべての栄養素と酵素を手渡す。ここはゆっくり流れないと栄養が手渡せないからだ。このようにあらゆる組織は機能できることになる。

ルローが起こると病的になる

赤血球は全ての栄養素と酵素を全ての組織に届けている凄いやつだということがこれで判ると思う。ところが、何らかの理由でこの真毛細血管に赤血球が入っていない場合が出てくる。その時困るのは「組織」である。「組織に酸素も酵素も、ビタミン、ミネラル、タンパク質、脂質、デンプン、ファイトケミカル、ホルモンが行かなくなったら」と考えてみてほしい。そしたら、その組織は絶対に「機能」はしないと誰もが思うことだろう。

では、どうなったら、組織に栄養も酸素も入らなくなるのだろうか。

その答えは、これから述べるが、そのことより組織は栄養不足、酸素不足となり病気や痛みがくることを思うといかに、赤血球の循環と組織の伝達が重要なことかと思う。

人間はルロー(連鎖形成)によって病気も症状(痛みや凝りやめまい)も起きる

人間は、どんな組織、どんな細胞でも栄養と酸素を必要としている。その栄養素と酸素を運んでいくのは、赤血球だ。栄養素と酸素が組織や細胞に届かなくなると、大変なことになる。栄養や酸素が行かない場合の組織は、「飢餓状態」となる。その時出現するのは「活性酸素」である。この活性酸素によってマイナスの電子が引き抜かれ組織は痒づる式に酸化していく。つまり組織はどんどん腐って行くのである。その結果、痛みの大元の「乳酸」が筋肉に生じたら、凝りや痛みが必ず起こる。筋肉はこの乳酸によって岩よりも固い状態になり、ガチガチになるからだ。これは凝りを通り越して痛みもくるのだ。

また、酸化された組織は機能しなくなる。この結果その臓器には病気が起こる。心臓なら狭心症や心筋梗塞、腎臓なら腎炎や腎不全といったように。

ルローの起こった組織は、その組織の働きが失われていき、病気になるっていくのだ。では、そのルロー(連鎖形成)とは、どうしたら起こるのだろうか。